



洛風だより・ほかほか通信 ～保護者のみなさまへ～

困って立ち止まってしまう時、

誰にでも、人に言えないことはあります

先週、3年生の保健体育で「多様な性のあり方・LGBT」について学習しました。その中で、まわりの人たちはできているのに、自分だけができていない時、どうしますか？という問いかけがありました。その時、私（校長）がふと思い出したことがあります。それは、幼稚園の時のことです。その幼稚園では、給食の牛乳をビンからカップに入れて飲むことになっていました。しかし、5歳の時の私は、牛乳をビンからカップに入れることがうまくできませんでした。そこで、私は、母親はコップを持たせてくれているにもかかわらず、「コップ忘れました」と言ってごまかしていました。きっと、みんなの前で失敗するのが嫌だったのでしょう。また、まわりの子どもたちはできているのに、できない自分を知られたくなかったのでしょう。

さて、困った時の3年生の答えは、「できないとはっきりと言う」「黙っておく」「できているフリをする」「ケースバイケースである」などそれぞれでした。

特に自分ではどうしようもないことほど

人に伝えることが難しかもしれません

学習を終えた生徒の感想に、「自分らしく」そんなキレイ事が通る世の中になったらいいなあと考えた。でも、きっと我慢しなければいけない時もあるんじゃないかなと思ったし、その時、相手に応じて自分にできることをしてみたいと思った。というのがありました。

今回学んだ「多様な性のあり方」だけでなく、世の中には理不尽なこと、自分ではどうしようもないことで悩んだり、苦しんだりすることがあります。不登校やいじめもその一つかもしれません。特に思春期の子どもたちには、親や近い大人にこそ言えないこともあるでしょう。「その時、相手に応じて自分にできることをしてみたい」と考えてくれる人が周りに一人でもいてくれたらとても心強いのではないのでしょうか。つい、大人は、自分の経験からの考えで意見してしまいがちです。しかし、相手に応じて自分のできることを考える、相手のことをまず尊重する感性が大切ですね。今回の学習で、生徒たちは大事なことに気づいてくれたように思います。

カウンセラーを囲む会、今年度も皆様と温かな 交流ができました ありがとうございました

先週、今年度最後の「カウンセラーを囲む会～思春期・子育て・学び合い～」がありました。2年生と3年生の保護者の参加があり、2年生からは、生き方チャレンジ体験での子どもの頑張りが印象に残っているという話が聞けました。3年生からは、修学旅行や秋パーティで自信がついたこと、友だちとの交流も広まったということでした。

毎年のことですが、「仲間とともに」という本校のテーマにあるように、一人では体験できないことにチャレンジできる経験は、子どもの成長を確かに促してくれます。このような子どもの成長を保護者の方にも実感していただき、子どもを見つめる眼差しがより温かく変わっていくことが、子どもの安心・安定につながり、次のチャレンジへの力となるように思います。

明日からいよいよ3月、3年生の卒業が近づいてきました。心なしかさみしいような風を感じます。その一方で、生徒たちや保護者の方々からの感謝の気持ちを伝えていただいていることが、私たち教職員スタッフにとっても励みになり、有難いことだと思います。